

非常用発電機から太陽光・立体駐車場まで 関西設備工事会社の雄、三友工業株式会社

今回は関西地区の大手発電設備工事会社「三友工業株式会社（大阪市淀川区三国本町1-14-37、衣斐司郎（いびしろう）社長）」を取材した。同社はヤンマー、京セラ、東急パーキングシステムズのそれぞれの特約店として、非常用発電設備、太陽光発電システム、機械式立体駐車場といった多様な設備の据付工事に取り組むトータルエンジニアリングメーカーである。同時に、本社1階部分に無料ギャラリー『フリー・アート・スペース～I HAVE A DREAM』を設け、写真・絵画・書道・工芸などの芸術発表の機会を望んでいる地域の子供達や学生達などに貸し出すなど社会貢献活動にも熱心に取り組んでいる。同社の取り組みを紹介する。

設立の経緯

三友工業の設立は「大阪万博」が開催された昭和45（1970）年9月10日。設立者の衣斐小十郎（いびこじゅうろう）氏を中心に、「三名の友人」が集まり「三友工業株式会社」を設立した。設立と同時にヤンマー特約店となり、関西地区を中心に発電設備ユーザーの新規開拓に取り組み、順調に納入実績を伸ばしていった。

所で、かねてより発電設備業界では、発電設備の技術者には、電氣的知識、機械的知識、法令に関する知識の3部門を包含する「知力」が必要であるといわれる。その知力とは、知識と実務に即した「理解力」、建設工事現場に精通し円滑に顧客とのコミュニケーションを図り現場を仕上げる「現場力」の両方の能力を指し、理解力・現場力を備える人材をいかにして育成していくのが課題とされている。

それら課題の解決に向けて同社では、設立以来40年以上にも及ぶ発電設備の設計・施工・メンテナンスに至るまで一貫した自社施工体制を敷いている。それにより、技術力の内部蓄積に努めてきた。また、定期的な社内ミーティングを実施して社員のコミュニケーション能力のスキルアップを図ってきた。そうした長年に渡る取り組み実績の積み重ねが技術力



三友工業株式会社の本社ビル

や営業力の総合的強化につながったとしている。

現時点の資本金は1,000万円。従業員数は約40名で「大阪本社」「東京支店」（東京都港区芝浦3-11-7）に置いた営業2拠点を通じて、北海道～沖縄までの広範囲な国内市場をカバーしている。取扱製品は、防災用・非常用・常用のディーゼル発電設備、ガスタービン発電設備、バイオガスコージェネシステム、太陽光発電システムといった発電設備。また、立体駐車場の建設では全国シェアトップを誇る東急パーキングシステムズ特約店として機械式・自走式の立体駐車場や電気自動車の専用充電スタンドなどの様々な機械器具などを対象とし、販売・据付工事を手掛けている。なお、製品の品質確保策の一環として、同社は平成15（2003）年7月10日付けで国際品質規格「ISO 9001:2000」の認証を取得し、平成21（2009）年5月1日付けで国際品質規格「ISO 9001:2008」の認証を更新している。

主な事業内容

「発電設備」の事業については、A重油を燃料に使用するヤンマー製ディーゼルエンジンを搭載した「防災用発電設備」「非常用発電設備」「常用発電設備」の据付工事を行っている。さらに各地に設置された発電設備のメンテナンス契約を請け負っている。特に最近では、発電設備ユーザーの環境意識の高まりを受け、バイオマスなどの再生可能エネルギー、太陽光などの新エネルギーを活用する、いわゆるエコ



早稲田大学 11 号館に納入した非常用発電設備

発電システムの引合いが増えているという。そのため、バイオマスから抽出した発酵メタンガスを燃料とする「ヤンマー製ガスエンジンコージェネシステム」、京セラが開発した太陽電池を組み合わせた「太陽光発電システム」などを主に自治体向けに販売・営業活動を積極的に展開している。

一方、発電設備以外の事業については、「立体駐車場施設」「電気自動車専用充電スタンド」の販売・建設工事に取り組んでいる。地価の高い大都市圏では、狭小な土地の有効活用につながる立体駐車場の需要拡大が見込まれている。三友工業では、建設現場の周辺環境や土地の形状といった立地条件、顧客のニーズを踏まえ、最適なタイプの駐車場施設を提案している。

また、排ガス排出抑制や大気汚染防止に貢献できることから今後の本格普及が望まれる電気自動車について、その普及促進策として「専用充電スタンド」の設置事業を積極的に推進している。今後も、社会の動向を見据え、その中から新たなビジネス実現可



地上 3 段横行昇降式の立体駐車場



岸和田市消防本部庁舎に納入した太陽光発電設備

能性の高い種を掘り起こし、事業としての実現化に向けて積極的にチャレンジしていく方針である。

注力していく製品

「発電設備」については、地震による停電や火災発生時に自動で起動し非常照明やスプリンクラーに電力供給を開始する、キュービクル式防災用ディーゼル発電設備「ヤンマー製 Auto Pack シリーズ (60Hz 時・定格出力 25kVA～500kVA)」の販売を推進していく。また、非常用ディーゼル発電設備「ヤンマー製 Diesel Power シリーズ (60Hz 時・定格出力 125kVA～4,000kVA)」、非常用予備電源として活用されているガスタービン発電設備「ヤンマー製 ATG シリーズ (250kVA～2,500kVA)」のさらなるシェア獲得に向けて積極的な営業活動を展開していく。「太陽光発電システム」についても業務用分野を中心に導入拡大を図っていく。

「立体駐車場」については、中小規模の屋外型駐車場 (昇降式、昇降・横行式、縦列式) から最新の制御技術を搭載した大規模なタワー棟型駐車場 (エレベーター式、メリーゴーランド式) まで、幅広い製品ラインアップを取りそろえることで、既設の増設工事や入替工事、新設の設置工事など様々な需要ケースへの対応を図り受注拡大を目指す。また、さらなる低振動性・低騒音性を実現できる環境に配慮した駐車場施設の普及促進にも努めていく。

電気自動車の「専用充電スタンド」については、既に京都市内だけでも「東余熱利用センター」「宝ヶ池運動公園施設」「小畑川中央公園」「青少年科学センター」「エコロジーセンター」の各駐車場に充電スタンドを設置した多数の納入実績を持っている。充電時間の短縮化を図った優れた充電スタンドの導入拡大に向けて積極的な営業活動を推進していくこととしている。